

新しい授業づくりの文化をつくる 「吹田の授業づくり Update プラン」 校内研究活性化プラン

令和7年6月23日実施 Update プラン通信 第3号 小国 教材研究会

小国教材研究会 6月23日(月) @ 吹田第六小学校
単元名:くらしの中の和と洋 授業者: 前田浩輔先生 (吹田第六小学校)

「吹田の授業づくり Update プラン」校内研究活性化プランでは、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は小学校国語科の教材研究会を行いました。授業者の前田先生より、教材文を読んだことから和と洋の比較を行い、子ども自身が相手意識・目的意識を持って報告内容を書いていくというご提案をいただきました。齊藤先生より、単元で言語活動を描く時のポイントとして、子どもたちが目的意識を持てるように「何のために読むのか」を問い直し、〈読む〉と〈書く〉を往還させて学びを描くこと。そして、子どもたちの経験をベースにした“材”の選択の大切さをご指導いただきました。この学びを基に、10月3日(金)の授業研究会へ向けて、さらなる授業改善に挑みます。

—講座の目的—

- ①未知の問題場面に会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校での OJT に生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

—講座の目標—

吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

授業づくりのプロセス

単元を創る	学習指導要領に基づいて	本時を創る
・育成すべき資質・能力を明確にする ・見方・考え方の成長をイメージする		・目指すゴールに対応した問い ・教科ならではの学習過程(プロセス) ・見方・考え方を伸長させる明示的指導

授業づくりにおいて大切にしたいこと

子供が切実性・必然性のある問いを持つ	教師が学習過程(プロセス)も能力であると捉える	子供が自分自身の成長を実感する
--------------------	-------------------------	-----------------

授業者の提案



前田 浩輔先生
(吹田第六小学校)

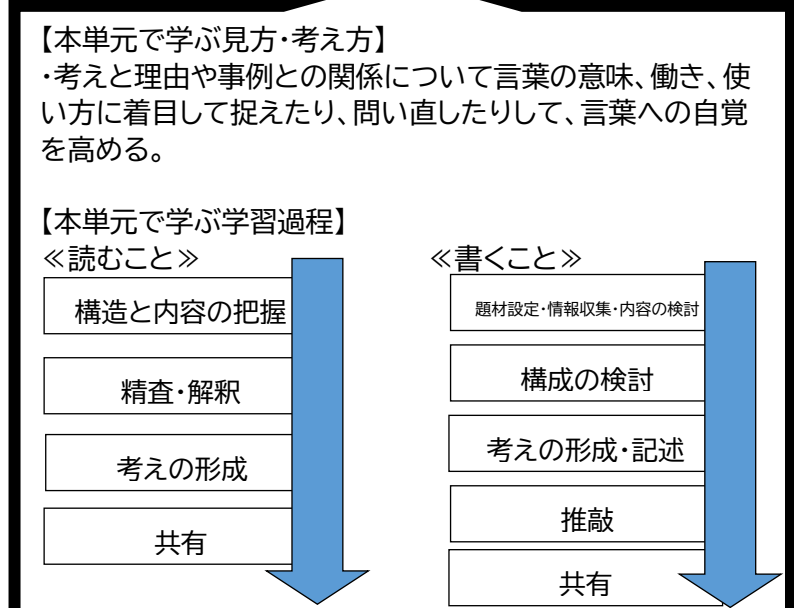
Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

- 【知識及び技能】
- ・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。
 - ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
- 【思考力・判断力・表現力】
- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
 - ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
 - ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。
- 【学びに向かう力、人間性等】
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、進んで目的に合わせて材料を整理し、学習の見通しを持って、報告書を作ろうとする態度を養う。

What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？



How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

「和」と「洋」の比較を行い、共通点や相違点を捉えるとともに、教材文から学んだことを活かして報告書を作成していく。

時	学習活動	見方・考え方を働かせている子供の姿
1~3	学習課題・学習計画	どうすれば伝わりやすい書き方ができるのかを考え、学習課題を設定する姿
4~8	構成を捉える	よさを表す言葉に着目して、構成を捉える姿
9	和室・洋室のよさを書く	よさを表す言葉に着目しながら、その言葉の意味を捉え、考えをまとめる姿
10	発表会をする 書いたよさを振り返る	言葉の意味に着目してまとめた文章を視点をもとに問い直す姿
11	材料を集める	集めた材料から必要な情報や言葉を見出す姿
12	伝えたいことを明らかにする	集めた材料の言葉に着目し、意味や使い方を捉え、観点を立てて整理する姿
13~15	考えをまとめる	これまでの学習をもとにして考えをまとめる姿
16	発表会をする 書いたよさを振り返る	相手や目的に応じて、どのような言葉を選んで、表現するのが適切であるかを捉え、問い直す姿

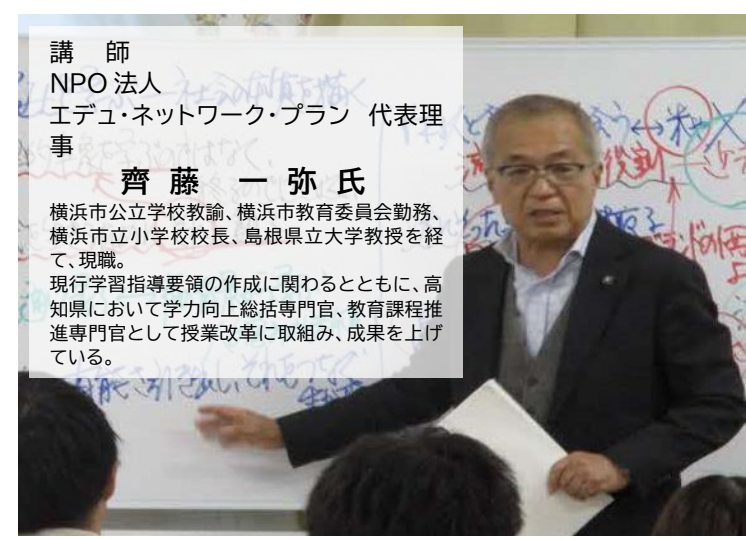
【単元終了時の目指す子供の具体的な姿】

- ・集めた材料の言葉の意味、使い方を捉え、観点を立てて整理する姿
- ・整理した後、どの言葉を使えば分かりやすくなるのかを意味、使い方をもとに判断し、表現する姿

学習過程	内容の検討	考えの形成	記述
子供の問い	○集めた材料は、調べたメモから文章にすればいいのかな。	○自分の集めた材料はどう整理できるかな。	○今日学んだことは何かな。
本時の学習活動、内容	○学習課題の確認 「集めた材料は、どうすればいいかな。」 ○観点を立てて、例題をみんなで整理する。	○主発問 「整理するよさは何かな。」 ○自分の集めた材料を整理する。	○今日の学習で学んだことをまとめる。 ○次時にどう下書きをするかを相手意識の観点を立てて振り返る。
見方・考え方	○言葉の意味を捉え、観点を立てて整理している。	○集めた材料の言葉の意味、使い方を捉え、観点を立てて整理している。 ○どの言葉を使えば分かりやすくなるのかを意味、使い方をもとに判断し、表現している。	○今日の学びを通して、次時にすべきことを捉えている。
指導上の留意点(●) 評価規準及び評価の方法(★)	●児童にとって必要性が感じられる課題となるように、多くの材料をこれからどうするか、問う。	★観点を立てて比較や分類を行っている。(知2イ)(ワークシート) ★言葉がもつよさを感じるとともに、進んで目的に合わせて材料を整理している。(主体) ★相手を意識して想像したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりしている。(B1ア)(ワークシート)	

講師
NPO 法人
エデュ・ネットワーク・プラン 代表理事
齊藤 一弥氏

横浜市立学校教諭、横浜市教育委員会勤務、横浜市立小学校校長、島根県立大学教授を経て、現職。
現行学習指導要領の作成に関わるとともに、高知県において学力向上総括専門官、教育課程推進専門官として授業改革に取り組み、成果を上げている。



Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

What

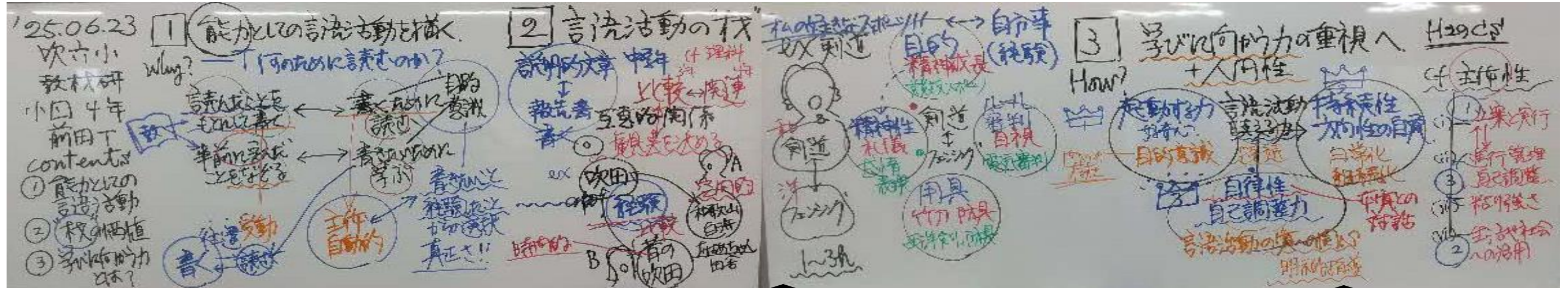
何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

How

どのように学ぶのか

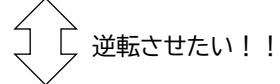
子供達の学習過程は？



1 能力としての言語活動を描く

“何のために読むのか”

「**読んだ**ことをもとにして**書く**」



逆転させたい！！

「**書く**ために**読む**」

…書くことを実現するために学ぶ(教材文を読む)
つまり、書きたいという思いが先にあって、そのために教材文を読んでいく。

【説明的文章を教材とした書く活動でよく見る学習過程】

・教科書教材を読んで学ぶ(書き方など)
・その後、自分でテーマを決めて、勉強したことを使って書く

「**書く**」という目的が先にある

教科書の書き方をひな形として練習する

→いざ書く時、子ども達はひな形と同じような場面で、ものを書こうってなってしまう。
だから、教師が「他のでもいいよ」と言っても、子どもは「和と洋」から離れられない

単元の入口で目的意識をはっきりさせて自分は何を書きたいのかという“書きたい内容”の【選択】をはっきりさせたい。

では、この書きたい内容のベースとなるものは…**経験したこと** 例)クラスのこと

子供が、わからないこと、知らないことをいくら比較しようとしても、その学びは真正さに欠ける(オーセンティックではなくなる)

「教材文を読んでから、後で何かを書く」という活動は、小学1～2年中盤くらいまでにしておいて、4年生段階だと、「材」を自分で決めるという目的意識っていうものを言語活動の入口で持たせておきたい。

そうすると、「教科書にみんながこれから書くのにとっても参考になる話があるから」という形で

「**書く**」と「**読む**」を往還する

というものをもっと丁寧にしていきたい。

最終的に、この単元の【主体性】はどこですか？書く？読む？…書く方ですね。

「読んだことをもとにして書く」では書くが受動的
「書くために読む」では書くが自動的・主体的

「**書く**」を主語に！

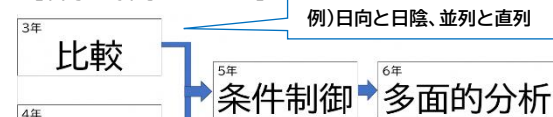
今回身に付けたいことは「和」と「洋」について？…今回やりたい“材”は【比較】

【比較】するものはたくさんあるじゃないですか。しかし、「書く」が受動になると、子どもも「勉強したことを書けばいい」となって主体性を止めてしまうことになりかねない。

2 言語活動の“材”を決める

○言語活動のポイント(中学年)比較 → 比較をすると、次は関連づける
この(比較・関連付け)というプロセスは理科でも科学的探求プロセスという形である。

【科学的探求プロセス】



例)日向と日陰、並列と直列

国語だけの話ではなく、理科でもそういう“めがね”(比較・関連付け)で事象を眺めている

比較したならば関連付けをする。そういうめがねが育ってきている時期なんです。

○では、国語では？…低学年のうち、「2つのものを比較する」という場面は少ない。

例)ウサギはどんな動物か？という時でも…

→「耳はどうなっている？」「尻尾はどうなっている？」というように2つを比べるということとはしていない。

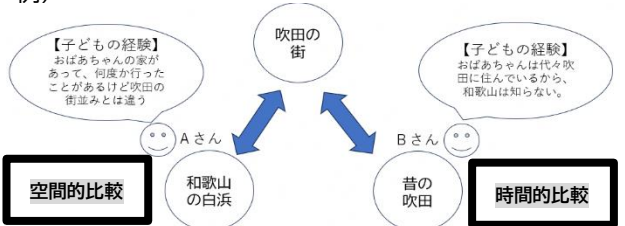
ウサギとハムスターを比べてみる、犬と比べてみる となった時

比較をするととなった時には、【観点】を決めなくてはならない

「観点を決める」ということは、算数でよくでてくるんです。

つまり、子どもたちは教科を越えて、比較・検討する時にめがねを磨いている。

○書きたいことを経験したことから選択する
例)



★Aさんは和歌山。Bさんは和歌山知らないから比較できない？…ということはない。

★Aさんだったら、「自然」「お店」「食べ物」などで比較が生まれる。

★Bさんだったら、「街並み」「駅前の様子」「学校のまわりの様子」などで比較が生まれる。

自分の関心のあることをベースにして考えを進める。【材を決める】

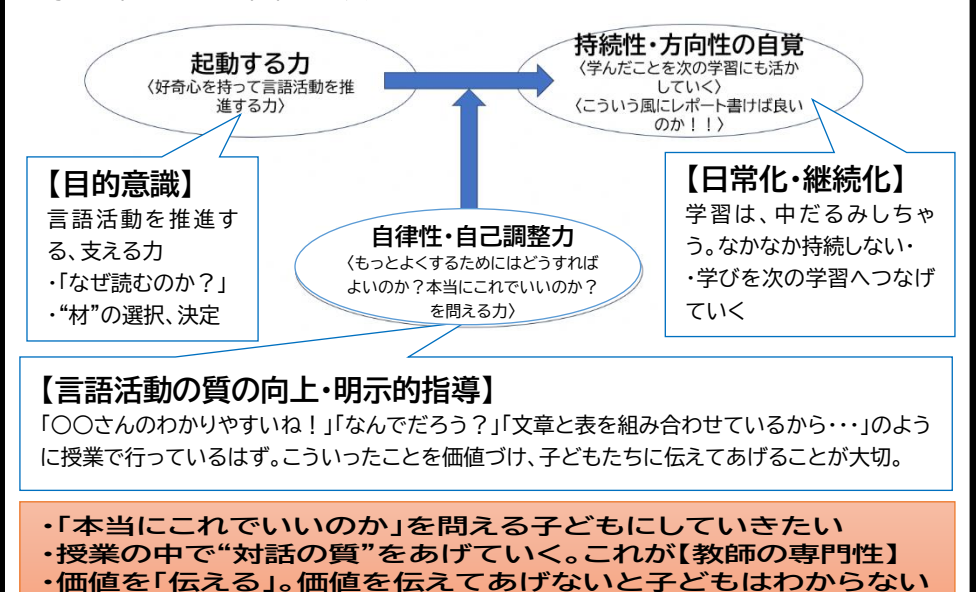
子どもというのは、“自分が好きな物”とか“行ったことある”とか“やっている”ということをベースにして人にも伝えたいし、調べたいんですよ。

そして、材を選択したら、観点を決める。そういうことを自分で決めることができるようにしていきたい。※指導板書では、「和:剣道」と「洋:フェンシング」【観点】(目的)(精神性)(用具)(審判)

子どもが“材”を考える際の、単元の入口を丁寧に描いていく

3 学びに向かう力・人間性の重視

○学びに向かう力・人間性には大きく3つのポイントがある



・「本当にこれでいいのか」を問える子どもにしていきたい
・授業の中で“対話の質”をあげていく。これが【教師の専門性】
・価値を「伝える」。価値を伝えてあげないと子どもはわからない

4 主体性の4つの側面 ※H29学習指導要領(以下CS)で整理されている

○立案…できるかどうか、どういうことを学ぶのかを計画し実行する

○進行管理・自己調整…計画通りできているかなと問い直せる

○粘り強さ…思考し続ける態度

○生活や社会への活用…学んで終わりではなく、自らの生活に活かす、使おうとする(主体性)というテーマで校内研究を進める上で、

何か新しいことをするというのではなく、すでにCSで整理されている。大事なことは、自校でどういうことを中心にしてこれからの授業づくりを進めていくのかを整理整頓すること。

受講者の感想

●前半「読む」・後半「書く」という展開が多かったですが、往還的に取り組む大切さを学び、自分の授業を振り返るきっかけになりました。
●研究授業当日だけでなく、指導案検討の段階で校内や外部の方と議論したり、講師先生のお話を聞けたりすることは深い学びとなる。
●「何のために」はすべての授業づくりの基本だと改めて感じた。